

ジオパーク: 野外での自然科学教育の拠点として

Geopark: Regional center for outreach activities of earth science

渡辺 真人 [1]

Mahito Watanabe[1]

[1] 産総研・地質情報研究部門

[1] GSJ, AIST

各地で行われている、地学を含めた野外における自然科学教育をジオパークの枠組みでさらに活性化し、学校では充分に行えない野外での自然科学教育の拠点としてジオパークを使えるようにしたい、というのが本発表の趣旨である。

ジオパークとは、地質遺産と呼ばれる地質学的に重要な露頭や、重要な地形などを含む一種の自然公園である。地質遺産を保護し研究に活用するとともに、自然と人間との関わりを理解する場所として整備し、教育の場として、また新たな観光資源として地域の振興に活かすことを目的とし、ヨーロッパと中国で盛んな活動が行われている。

2001年のユネスコ執行委員会で、各国のジオパーク推進活動をユネスコが支援することが決定され、それに基づき、ユネスコの支援により2004年に世界ジオパークネットワークが設立された。ネットワークの事務局はユネスコの生態・地球科学部門にある。この世界ジオパークネットワークが中心となってジオパークは推進されており、現在世界ジオパークネットワークには、ヨーロッパと中国を中心として50箇所のジオパークが加盟している。

ジオパークの先進国ヨーロッパでは、ジオパークは自治体の援助を得たNPO、あるいは自治体や国の出先機関などが主体となって運営されており、地域の研究者が科学の面からサポートしている。自然観察路や説明看板を整備し、わかりやすい地図やガイドブックを作成し、ガイド付きツアーを行ったり、学校からの団体を受け入れて野外教育を行うなどの活動を行っている。これらの活動に必要なガイドは地元の人から養成されている。これらの活動の結果、ジオツーリズムという地球科学的見所を楽しむ旅行が徐々に一般的なものになってきている。

日本におけるジオパークの活動はまだ始まったばかりで、いくつかの地域が準備を始めたところである。日本地質学会ジオパーク設立推進委員会では、地球科学の研究者や教員、地域振興のためのアイデアを必要としている自治体など地域の人、観光業者の間の橋渡しを手伝い、ジオパークの設立を推進しようとしている。ジオパークの枠組みがうまく動き出せば、地球科学の普及に自治体や地域の観光協会などからの援助が得られ、より多くの人が野外で自然を学び、楽しむことが可能になる。ジオパークを利用することにより、専門の教員のいない学校でも、地球科学の野外での教育を行うことができるようになる。ジオパークが拠点となって、社会における地球科学の普及が進むよう、ジオパーク推進の活動を盛り上げていきたい。